



友呂岐中学校が担当したのは「フィジーの文化」。部員13人で協力し合い完成させた

地球号の  
子どもたち  
第9回

## 一枚の絵がつかないだ 大阪とフィジーの中学生

2つの国の子どもたちが、一枚のキャンバスに絵を描く「アートマイル壁画プロジェクト」。この魅力的なプロジェクトに挑戦したのは、寝屋川市立友呂岐中学校とフィジーのダッドリー中学校の生徒たち。互いの国に思いをはせながら、彼らが描いたものとは。



友呂岐中学校(右)とダッドリー中学校(左)が共同制作した壁画は、5月から8月にかけて、東京と名古屋の地球ひろば、JICA大阪にも展示された

### フィジーの中学生と一緒に絵を描こう

「フィジーと聞いて、思い浮かべるのは？」

「きれいな海!」「南の島!」

大阪府寝屋川市にある寝屋川市立友呂岐中学校。2008年秋、放課後の美術室で、美術クラブ顧問の細田英美先生が、太平洋に浮かぶ国フ

ィジーについて部員に話をしている。いつもは黙々と創作活動に取り組む彼女たちも、この日はちょっと様子が違う。そう、すべては「アートマイル壁画プロジェクト」の準備のためだ。

「アートマイル壁画プロジェクト」は、世界125カ国約25万人が参加する国際的な取り組み。縦1.5×横3.6メートルの大きなキャンバスに

絵を描く。ここでちょっとユニークなのが、海外の学校と共同で絵を完成させるというやり方。そのコーディネートをするのがジャパンアトマイルだ。JICAもこの取り組みに協力しており、青年海外協力隊の活動先を紹介したり、国内機関や地球ひろばに作品を展示するなど、日本と開発途上国の「懸け橋」となってきた。

「昔から海外に興味があった。実は、協力隊に応募したこともあるくらいなんです」と笑う細田先生。「初めて海外に行ったときのショックは今でも忘れられません。生徒たちにも、若いころから異文化に触れて、視野を広げてほしいかった」。同僚からプロジェクトについて聞き、07年から美術クラブで取り組むことに決めた。

1年目は、インドネシアの中学校がパートナーに。しかし、初めてということもあり、現地の先生とコミュニケーションがうまく取れず、思った通りに作品を仕上げるのができなかった。「次こそは」という思いで臨んだ2年目、今度はフィジーの荒川純江隊員(学校教諭)の活動先ダッドリー中学校と一緒に壁画を作成することになった。

### 子どもたちの心が一つになった瞬間

日本とフィジー。まずは、互いの国を知ることから始まった。「最初はフィジーがどこにあるかも知らなかった」という福岡菜波さん(当時2年生)。インターネットなどを使って、歴史や文化について調べた。ダ

ッドリー中学校でも、「日本についてもっと教えて!」と生徒たちが毎日のように荒川隊員に駆け寄ってきた。そして11月には、JICA大阪のテレビ会議システムを通じて両校の生徒が対面。福岡さんは、英語で自己紹介をし、剣道のパフォームなどを披露。フィジー側も、日本語での自己紹介、伝統的な踊り「メケ」やインディアンダンスで応えた。最後には、この日のために猛練習したという「ふるさと」をみんなで合唱した。

このような交流を通じて決まった壁画のテーマは「お互いの文化を知ろう」。最初にキャンバスに絵を描いたのが友呂岐中学校。「民族衣装を身にまとった戦士」「ラグビー選手」「伝統的な寺院」「豊かな自然」など、そ



(上)ウクレレで「ふるさと」を演奏するダッドリー中学校の生徒たち。「フィジーの子どもたちは、何でものみ込みが早いです」(荒川隊員)  
(下)生徒たちが描いた絵を届けるため、JICAフィジー事務所を訪問した細田先生(左から3人目)

れぞれが持つフィジーのイメージを、一筆一筆、丁寧に描いていた。「いつもは一人で描いているので、みんなで分担して描くのは大変でした」と石井ひかるさん(同)。幾度となく失敗を繰り返しながら、何とか完成させた。

今度は、フィジーの子どもたちの番。「生徒たちの思いを直接届けたかった」という細田先生は、09年1月にフィジーを訪問。荒川隊員と担当のマフィー先生にキャンバスを手渡した。そして新学期。荒川隊員いわく「絵を広げたとき、わーっと歓声が上がった」。「大家族の子が多いので、共同作業が得意」(荒川さん)というフィジーの子どもたちは、「相撲の力士」「着物を着た女性」「新幹線」などを描き、ついに1枚の絵が完成。日本とフィジーの中学生の心

が、一つになった瞬間だった。「文化は違うけど、興味や感じることはきっと同じ。テレビ会議で、顔を見ながら話をして、親近感がわきました」という福岡さんと石井さん。「もっと英語を勉強して、いつかフィジーにも行ってみたい」と目を輝かせる。

今年も、引き続き壁画の制作に取り組む友呂岐中学校。牧野一徳校長も「国際交流や共同作業の大切さについて学ぶのはもちろん、日本の文化について見直すきっかけにもなれば」と期待する。2010年には、「アートマイル壁画プロジェクト」から生まれた全世界の作品が、エジプトのギザで展示される予定。2つの国の子どもたちの思いが詰まった壁画が、ピラミッドを彩る日が楽しみだ。



友呂岐中学校から届いたキャンバスの左側に、「日本の文化」を描くダッドリー中学校の生徒と荒川隊員(撮影:今村健志朗)

※日本国内に「アートマイル壁画プロジェクト」(本部アメリカ)を普及するため、壁画制作のコーディネーターや作品の展示を行う団体。